

中期目標の達成状況に関する評価結果

山形大学

平成21年3月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

I 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「教育に関する目標」に係る中期目標（5項目）のうち、4項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「教育目標：教養教育と専門教育のカリキュラムの一層の充実を図り、創造性豊かな人間性と優れた専門性を育み、実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成を行う。また、多様な研究成果を活かした教育を通じて、持続可能な社会の実現に向けて、地域や国際社会で貢献できる人材を育成する」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

(2) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（13項目）のうち、2項目が「良好」、10項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 教育の実施体制等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が不十分である

[判断理由] 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(5) 学生への支援に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「エネルギー・環境・食料・人口問題等、21世紀の諸課題に対応できるよう学際領域の授業科目の充実を図る」について、一般教育科目のみならず各学部の専門教育科目においてもエネルギー・環境・食料・人口問題等に関する授業が開講されているほか、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに4件採択されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「単位取得状況、GPAの分布、履修状況、学生に対するアンケート調査などを踏まえ、教育課程の改善・充実を図る」について、「グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度」、「アドバイザー制度」、「学習サポート教員制度」の三つの柱で構成された修学支援体制である「YU サポートシステム」を平成16年度から立ち上げ、修学支援を実施したこと、アンケート調査結果等を教育課程の改善・充実に反映させていること及び教養セミナーの科目数を増加させたことは、優れていると判断される。
- 中期計画「全学部で学生による授業評価を原則として毎学期行い、評価結果を教育方法の改善・充実に積極的に活用する」について、学生による授業評価を定期的に実施して、その成果を教育方法等の改善に反映させており、その結果、学生の授業に対する総合満足度が年々向上していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「就職セミナー、ガイダンス等の開催、個別の就職相談等の実施による学生の就職意識の啓発及び就職試験に対する実践的な指導を行い、就職支援の充実を図る」について、平成19年度に就職ガイダンスやセミナー個別相談等様々な取組を実施し、過去最高となる99.5%の就職率を達成したことは、優れていると判断される。

(改善を要する点)

- 中期計画「人間教育重視の観点から、教養教育と専門教育を連携させた教育実施体制を充実させる」について、専門教育科目を他学部の学生が一般教育科目として受講することを可能にする取組だけでは、連携が機能しているとはいえないことから、改善することが望まれる。
- 中期計画「個々の授業・演習ごとに到達度を明示し、成績評価の方法・基準を策定・実施する」について、到達度の明示や、成績評価方法・基準の策定が行われていない授業科目があることから、改善することが望まれる。
- 中期計画「教員の教育活動に関する評価手法の検討を進め、教育業績の正当な評価を行うとともに、教育能力に優れた教員の採用を進める」について、達成状況報告書には、教育能力に優れた教員の採用を進める取組についての十分な自己分析がなされておらず、中期計画の進捗状況が認められないことから、改善することが望まれる。

(特色ある点)

- 中期計画「学生主体の問題解決型の授業を増やす」について、「エリアキャンパスもがみ」において学生主体の問題解決型授業である体験型授業「フィールドワーク共生の森もがみ」を開講したことは、学生の問題発見・解決能力の向上及びプレゼンテーション能力の涵養が図られている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「アドミッション・ポリシーを受験生や受験現場に周知徹底し、本学に相応しい受験生を掘り起こし、本学の求める学生の入学を促進する」について、学長直属のエンrollment・マネジメント室による学生支援体制を構築し、「入試アドバイザー」による独自の高等学校訪問により志願者の増加につながっていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「英語（C）〈コミュニケーション英語〉と英語（R）〈読解〉の趣旨を徹底し、英語（C）については少人数のクラスとし、ネイティブスピーカーの活用を図る」について、外国語教育センターを設置して、語学教育の充実を図っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「教育方法の改善のための専門組織を設け、教育活動の改善・充実に具体的かつ実践的に取り組む」について、高等教育研究企画センターを設置して、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を積極的に推進し、山形県内の3つの4年制大学と3つの短期大学が連携し地域教育力の向上を目指す「地域ネットワーク FD “樹氷”」（現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択）を立ち上げ、さらに、このネットワークを東日本の国公立大学・短大に発展させた「FD ネットワーク “つばき”」を展開していることは、特色ある取組であると判断される。

II 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、2項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「独創的・萌芽的研究テーマを公募し、1学部（1部門）1件の採択・推進を図る」について、世界遺産「ナスカ地上絵」に関する学際的研究や山形県有機エレクトロニクスバレー構想プロジェクト等の国際的に質の高い先進的研究活動が推進されていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「重点研究を推進するための研究スペースとして全建物面積の5%の共有化を目指す」について、当初の計画を上回る8.6%の共有化を平成19年度に達成したことは、戦略的な利用を可能としている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「研究水準を維持するため、研究成果を組織として把握し、全教員の著書、学術論文、学術賞、特許等の一覧を定期的に公表する」について、大学情報データベ

ースを構築し、教員の研究活動状況、研究成果をウェブサイトで公開していることは、特色ある取組であると判断される。

III その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「社会との連携」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、3項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 国際交流等

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「国際交流等」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、2項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「県・市等との人事交流を推進するとともに、地域に密着した研究テーマの公募と推進を図る」について、地域に密着した研究を推進しており、また、山形県との連携強化に関連して科学技術振興調整費「食農の匠」育成プログラムに採択されたことは、優れていると判断される。
- 中期計画「地域分散型総合大学の特色を活かした学際的な教育・研究及び異分野との連携を促進し、産業・経済、行政を始めとする幅広い社会の要請に対応する」について、地域共同研究センターと6つのサテライトにより地域連携事業を意欲的に推進

しており、また、「エリアキャンパスもがみ」の取組により、「日本計画行政学会計画賞」を受賞したことは、優れていると判断できる。

- 中期計画「留学生課に国際交流部門を設置して専門スタッフを配置し、留学生センターと一体となって留学生及び研究者交流の支援を強化する」について、事務局の国際交流担当部門の専門スタッフを公募により採用したほか、国際交流ユニットの設置により、国際交流支援機能が強化されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「学部、研究科の入学者募集要項の外国版を作成し、留学を希望する外国人学生等に広く入学試験情報を提供する。これにより留学生の受入れを増加させる」について、留学生用に英語版の入学者募集要項や英語版、韓国語版、中国語版の入学案内リーフレットを作成し、また、留学生の受入れ制度の整備等の取組を行うことにより、留学生数が増加していることは、優れていると判断できる。

(特色ある点)

- 中期計画「附属図書館、附属博物館、重要文化財（旧米沢高等工業学校本館）等学内施設の公開を更に進め、地域サービスを充実させる」について、図書館の一般市民の利用が 20,000 名を超えていることは、特色ある取組であると判断される。